

キャラクター名
小早川 志紀(こばやかわ ゆきただ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	父親
	ソラリス					
オプション	エグザイル		年齢	43	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	自傷	初期侵食率	39	%
出自	名家の生まれ	経験	大失敗	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	43
肉体	2	1	0			3	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	3	0	0			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アームブレード+バトルマニューバ	白兵	3r+7	3	9		対象のガード値-5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 要人への貸し	
応急手当キット	
アームブレード	
バトルマニューバ	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
屍人(リヴィングデッド)	P	N		
"タイクーン" 半田半蔵(シナリオ)	P	誠意	N	食傷
友人	P	友情	N	悔悟
翼宿瑠緒	P	庇護	N	不安
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR: ブラックドッグ	2	2	Xジャー					
効果:	C値-LV							
アタックプログラム	4	2	Xジャー	武器		対決		
効果:	命中判定の達成値を[LV×2]							
ハードワイヤード	2		常時					
効果:	専用アイテムLV個常備化							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	カバーリング。行動済みでも可							
命のカーテン	2	4	オート	至近	自身	自動		
効果:	10m離れたPCのカバーリング可							
力の霊水	2	4	オート	視界	単体	自動	80↑	
効果:	ダメージ+(LV)D。自身不可							
磁力結界	2	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値+(LV)D							
電磁障壁	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値+4D							
異形の刻印	3		常時	至近	自身	自動		
効果:	最大HP+[LV×5]							
セキュリティカット	★	1	Xジャー	至近		自動		
効果:	セキュリティを切ったり、ロックを解除							
擬態の仮面	★		Xジャー	至近	自身	自動		
効果:	自分の顔や姿を変化させる							
効果:								
効果:								
効果:								

代々UGNに協力する名家に生まれた。幼少より非日常の世界に触れ、いつか尊敬する父親のように日常を守る一助になるために学び続けており、成人後UGN所属の補佐員となる。事務処理や応急処置から電子世界まで幅広くサポートできるため、そこそこ重宝されていたが、本人曰く最低限のラインを超えているだけでひとつひとつの能力は決して高くなく、「器用貧乏」らしい。

そんな彼が覚醒したのは、とあるオーヴァードが引き起こした事件である。彼もサポート役として出動していたが、不運にも巻き込まれた少年(非オーヴァード)を助けるために重傷を負う。死を覚悟した瞬間、親友(オーヴァード)に庇われる形で辛うじて生きながらえる。しかし救援要請は間に合わず、親友はお荷物(自分)がいるせいで命を落とした。それが引き金になりオーヴァードに覚醒。覚醒後は所属支部から姿を消し、フリーのオーヴァードとしてふらふらしていたが、何を思ったかUGN小佐古支部に所属することになる。

通過シナリオ: 「コードマジエンタ」

「小早川志紀と言います。よろしくお願ひします」
「なんで真面目にやらないのか、って？やだなあ、ちゃんとやってるよ。僕の実力がその程度なだけなのさ」
「どうせ死人だ、適当に肉盾に使ってもらって構わないよ」
「僕は家族に会う資格なんてないんだよ」